

■ 全体講評

今回の公開模試は、以下の内容を根拠に、学習の成果を適切に測定ができる試験であると評価します。

- ①午後Ⅰ記述式試験では、問3の難易度が若干低かったですが、採点基準の調整によって基準内に平均点が収まったこと
- ②午後Ⅱ論述式試験では、問1はコンプライアンスに対応する情報システムの整備とシステム監査ということで、個人情報保護法の改正に合わせたタイムリーな問題であったこと、問2はパブリッククラウドサービスを導入する場合の監査という、情報セキュリティの観点及びシステム化効果のモニタの観点など論述しやすい題材が出題されていること

次に、午後Ⅰ記述試験講評、午後Ⅱ論述式試験講評を述べます。

■午後Ⅰ記述式試験講評

3問中2問の選択になります。問1は営業員用のモバイル端末導入について、問2はSLA（サービスレベルアグリーメント）についての監査、問3は衣料品の製造販売業の在庫管理システムの監査です。

システム監査技術者試験の午後Ⅰ記述式試験では、このように、業種やテーマが広範囲に出題されています。自分の経験や専門知識を活かせるテーマを選んで解答することが大事です。

問題の選択についてですが、基本的には問1、問2を選択する人が多いです。今回の試験では問3は“在庫管理システムの監査”という、システム監査技術者試験では高い頻度で問われるテーマであったため、均等に問題が選択されています。これはよい傾向です。本試験においても、問3まで問題の概要をチェックするようにするとよいでしょう。

次に記述式問題における確認項目を説明します。

(1)キーワードを解答に盛り込む

記述式問題の採点では、複数の採点者が採点するため、採点者による格差をなくす目的で、キーワードを中心に採点することがあります。

問1では、ログなど問題文中にある重要キーワードを解答に盛り込むことが重要です。この問題においてログに該当するキーワードとしては、“各モバイル端末へのプログラムの配信記録”があります。次に、詳細に記述されている箇所に着目してキーワードを識別することも重要です。“プログラム属性の設定に「更新必須」のフラグを立てておく”、“営業員番号、所属営業所番号及び既契約番号の対応テーブル（以下、対応テーブルとい

う)”などの記述が該当します。

問2では、設問2の分析内容の解答に含まれる“遠方の営業所”が該当します。

問3では、設問2の改善策に含むべき“帳簿上の数量”あるいは“帳簿上の在庫数量”が該当します。

試験対策セミナーにおいて、記述式問題の解答を添削していてキーワードが解答にない理由を、受講者にヒアリングすることがあります。高い頻度で「解答欄に解答を書く際に、空欄が足りないのでキーワードを書けなかった」という回答をもらいます。そのとき私は「もったいない」と言ってしまう。解答欄の空欄不足でキーワードを解答欄に書けない場合、面倒でも解答を消しゴムで消して書き直して、得点に必要なキーワードを確実に解答に盛り込むようにしましょう。

(2)設問で問われている内容と解答の語尾を合わせる

問2設問2において、設問でレポート名について問われているにもかかわらず、“アクセスログ”などのログの名称を書いている解答が散見されました。“アクセスログ分析レポート”などレポート名に寄せて解答を表現するようにしましょう。

問3設問2において、設問で理由が問われているにもかかわらず、対策を書いている解答などが散見されます。理由を問われた場合は、基本的には「～ため」や「～から」という語尾にするとよいでしょう。“理由”については、語尾が不適切な解答は、厳しいですが、不正解としています。

(3)設問文にある解答条件を満たす解答を作成する

具体的には、問3の設問2の“棚卸しリストを改善するとしたら”が該当します。“バーコードを活用するなど”設問条件を満たさない解答は、部分点がないと考えてください。

(4)“因果関係”で解答を導く

すなわち、問題文にある“因”を基に解答である“果”を導くようにします。具体的には、問1設問4が該当します。問題文にある“全体としてはモバイル端末の活用が進むほど営業成績も上がるという傾向が確認できた”という“因”の記述から、“果”として“使い方”に関わる解答を導きます。

(5)問題文中にないことを確認してから解答者がキーワードを作る

解答に必要なキーワードが問題文中あるか探してください。問題文中にないことを確認した上で、解答に必要な言葉を作って解答するようにしましょう。具体的には問2設問2の監査証拠が該当します。

記述式問題の点数は、ボーダーラインである 60 点付近に集中します。以上の五つの内容に留意して、解答を作成して、なおかつ、時間が余ったら解答を見直すという気構えで本試験に臨むようにしましょう。

■午後Ⅱ 論述式試験講評

2 問中 1 問の選択になります。問 1 は、コンプライアンスに対応する情報システムの整備とシステム監査、問 2 は、パブリッククラウドサービスを導入する場合の監査です。

基本ができていないと、午後Ⅱ 論述式試験突破は難しいです。午後Ⅱ 論述式試験では、次の点を確認してください。

- (1) 名詞を問うている場合、あるいは、箇条書きのタイトル、以外では、体言止めを使用しない。
- (2) 略字を使用しない。
- (3) 禁則処理を行う。
- (4) “である” 調に統一する。
- (5) “お客様”, “いただく”, “～殿” などのていねい語は使わない。
- (6) 問題冊子や解答用紙で指定された方法で問題を選択しているかを確認する。
- (7) 解答冊子における、設問イやウの論述開始箇所を確認する。
- (8) 「実績と実績」、「購買と購売」、「概要と概用」、「相談と相談」、「当該、当核」、「部門、部問」などの誤字がないかを見直す。

システム監査技術者試験の午後Ⅱ 論述式試験では、出題範囲が広いために、ポイントを絞った事前学習が難しいです。したがって、(1) 管理と監査の違いを説明できること、(2) リスク要因、リスク、コントロール、確認すべきポイント (監査要点、) 、監査手続、監査証拠の考え方をしっかりと習得しておくこと、が重要です。

基本的な論述の仕方ですが、確認すべきポイントを挙げておきます。

- (1) 採点者が採点しやすいように、設問文に沿った章立てをする。
- (2) 採点者が採点しやすいように、設問文で問われているキーワードを使って論述する。
- (3) 過度に我田引水せず、趣旨に沿って論述する。
- (4) 監査手続には、監査手続を適用する対象、監査技法を含めて表現する。

監査手続に“閲覧”, “精査”, “突合”, “インタビュー” などの監査技法を盛り込んで表現することは重要です。

何を基に確認するのか、明確ではない監査手続が散見される傾向があります。監査手続の解答を作成したら、監査手続を適用する対象を含めて表現しているかを確認するとよいでしょう。実際に他者に指示をして監査手

続を実行できるように、具体的に表現することが重要です。

■問題ごとの午後Ⅱ 記述式試験講評

問1 営業員用のモバイル端末導入

この問題では、ログなど問題文中にある重要キーワードを解答に盛り込むことが重要です。この問題においてログに該当するキーワードとして、“各モバイル端末へのプログラムの配信記録” があります。

次に、詳細に記述されている箇所に着目してキーワードを識別することも重要です。“プログラム属性の設定に「更新必須」のフラグを立てておく”, “営業員番号、所属営業所番号及び既契約番号の対応テーブル (以下、対応テーブルという)” などの記述が該当します。

“因果関係” で解答を導きます。すなわち、問題文にある“因” を基に解答である“果” を導くようにします。具体的には、設問 4 が該当します。問題文にある“全体としてはモバイル端末の活用が進むほど営業成績も上がるという傾向が確認できた“という“因” の記述から“使い方“に関わる解答を“果” として導きます。

【採点基準】

[設問 1]

解答例にある“トランザクション番号” や“タイムスタンプ” というキーワードが盛り込まれていなくても、解答例の趣旨に合った解答であれば 10 点。その他は、基本的に 0 点。

[設問 2]

原因については、“更新必須” を必須とし、解答例の趣旨に合った解答であれば 6 点。その他は、基本的に 0 点。監査証拠については、“プログラム属性の設定”, “プログラムの配信記録” を必須とし、解答例の趣旨に合った解答であればそれぞれ 4 点。その他は、基本的に 0 点。

[設問 3]

“対応テーブル” を必須とし、解答例の趣旨に合った解答であれば 10 点。その他は、基本的に 0 点。

[設問 4]

解答例の趣旨に合った解答であれば各 8 点。その他は、基本的に 0 点。

【講評】

問題によっては、段落の最後に正解を導くためのヒントが書かれていることがあります。この問題では、[設問 4] のヒントが段落の最後に書かれています。それを見逃さないようにして、高得点を得るようにしましょう。

[設問 1]

設問では、不具合の発生について、システム監査人がさらに調査を行おうとした理由が問われています。〔システム監査の実施〕において、受注データが二重に送信

された旨が書かれています。サーバ側に二重データをもった場合、システム監査人は、トランザクション番号とタイムスタンプによって二重データの検出ができると考えます。この検出ができない理由としては、サーバ側のプログラムにバグがある可能性があります。したがって、「サーバ側にあるプログラムにバグがあり、二重データをもつ可能性があるから」などという解答も正解とします。

[設問 2]

厳しいですが、問題文中に括弧で囲まれている“更新必須”を必須のキーワードとし、これを含まない解答は不正解としました。

監査証拠については“プログラム属性の設定内容”を監査証拠とする理由は分かりやすいですが、“プログラムの配信記録”を監査証拠とする理由が分かりにくい可能性があるため補足します。問題文の〔システム監査の実施〕(2)において、“古い方法で保守料が設定”ということから、システム監査人は、いつの時点のプログラムなのかを知るために、“プログラムの配信記録”を監査証拠としたと考えてください。

[設問 3]

高い正答率でした。厳しいですが、“対応テーブル”を含まない解答は不正解としました。

[設問 4]

高い正答率でした。

問2 SLA(サービスレベルアグリーメント)についての監査

この問題では、設問 2 で問われている監査証拠が、問題文中にキーワードとして記述されていません。解答を作成する場合、まず、解答に必要なキーワードが問題文中にあるか探してください。問題文中にないことを確認した上で、解答者が必要となる言葉を作って解答するようにしましょう。

【採点基準】

[設問 1]

(1)解答例の趣旨に合った解答であれば 8 点。その他は、基本的に 0 点。

(2)解答例の趣旨に合った解答であれば 8 点。その他は、基本的に 0 点。

[設問 2]

①の分析内容において、“遠方の営業所”又は“全ての営業所”を必須とし、解答例の趣旨に合った解答であれば 7 点。その他は、基本的に 0 点。

①の監査証拠において、解答例の趣旨に合った解答であれば 2 点。その他は、基本的に 0 点。

②の分析内容において、解答例の趣旨に合った解答であれば 7 点。その他は、基本的に 0 点。

②の監査証拠において、解答例の趣旨に合った解答であれば 2 点。その他は、基本的に 0 点。

[設問 3]

①について、解答例の趣旨に合った解答であれば 8 点。その他は、基本的に 0 点。

②について、解答例の趣旨に合った解答であれば 8 点。その他は、基本的に 0 点。

【講評】

この問題では、問題文に書かれている頻度が多く、解答に必要なキーワードが問題文にないので、解答者が作成する必要があります。それに慣れていない受験者にとっては、難易度の高い問題となりました。キーワードが問題文中にないため、正解の範囲が広がったとも言えます。“因”となる問題文中にあるヒントを基に、“果”となる解答を導く演習とを考えてください。

[設問 1]

(1)SLA における管理項目は、運用部門の立場ではなく、利用者の観点から設定されることが重要です。具体的には、CPU 利用率ではなく、応答時間ということです。この設問では、その点を踏まえて解答するとよいでしょう。

(2)取締役会における確認事項について問われています。問題文中の〔システム監査の概要〕(1)にある“サービスレベルとそれに見合った料金設定かどうか、まず争われる”という記述から導かれる解答を正解として採点しました。

[設問 2]

①の分析内容では、〔システム監査の実施と監査結果〕(2)①にある“遠方の営業所の状況調査が不十分である”という記述を踏まえて、“遠方の営業所”あるいは“全ての営業所”を必須のキーワードとしました。

[設問 3]

高い正答率でした。

問3 衣料品の製造販売業の在庫管理システムの監査

この問題では、設問文にある解答条件を満たす解答を作成することが重要です。具体的には、問 3 の設問 2 の“棚卸しリストを改善するとしたら”が該当します。設問条件を満たさない解答は、部分点がないと考えてください。

設問 4 ではレスポンスタイムとターンアラウンドタイムの違いを問うているなど、難易度の低い設問のある問題です。本試験は、全ての問題に目を通して問題を選択するようにしましょう。

【採点基準】

[設問 1]

“バーコード”を必須とし、解答例の趣旨に合った解

答であれば 10 点。その他は、基本的に 0 点。

[設問 2]

改善策については、“帳簿上の在庫”あるいは“帳簿上の在庫数量”を必須とし、解答例の趣旨に合った解答であれば 5 点。その他は、基本的に 0 点。

理由については、解答例の趣旨に合った解答であれば 5 点。その他は、基本的に 0 点。

[設問 3]

解答例の趣旨に合った解答であれば 10 点。その他は、基本的に 0 点。

[設問 4]

解答例の趣旨に合った解答であれば 10 点。その他は、基本的に 0 点。

[設問 5]

解答例の趣旨に合った解答であれば 10 点。その他は、基本的に 0 点。

【講評】

在庫管理では、“在庫を引き当てる”という表現が高い頻度で使われます。この表現ができていない解答が散見されました。本試験までに使えるようにしましょう。

[設問 1]

“バーコード”を必須とし、このキーワードがない解答については、厳しいですが不正解としました。

[設問 2]

高い正答率でした。棚卸しにおいてバーコードを読み込ませる旨の解答がありました。“棚卸しリストを改善するとしたら”という解答条件を満たしていないため、厳しいですが不正解としました。

〔在庫管理業務の運用手順〕にある“実際の数量を数えて帳簿上の数量と差異がある場合だけその差分を記入”という記述を踏まえて、差分の記入の改善を指摘する解答が散見されました。改善して実際の数量を入力するようにしても、実際に数量を数えないという問題は解消されないことを根拠に、厳しいですが、差分記入の改善に関わる解答は不正解としました。

[設問 3]

電話オペレータによる通販の処理時間帯が問題文に書いていない、夜間のテレビショッピングは夜間も頻繁に行われていることを根拠に、夜間バッチ処理による在庫引き当てについての解答も正解としました。

[設問 4]

高い正答率でした。

[設問 5]

高い正答率でした。

■合格に向けての学習

〔午後 I 記述式試験〕

公開模擬試験の結果をレビューしましょう。それが終わったら、本試験問題などを演習して、得点できなかった設問について、解答解説と自分が導いた解答を比較して、ギャップが生じた原因を分析する方法は、得点力を上げる方法の一つです。ぜひ、実践してみてください。

〔午後 II 論述式試験〕

公開模擬試験のレビューをしたら、弱点を自己診断し対策を講じましょう。

監査手続を書けない受験者が散見されることが、IPA の試験講評の内容から分かります。論述式試験のために、監査手続の対象、監査技法を含む監査手続を書けるようにしておきましょう。

本番のシステム監査技術者試験の午後 II 論述式試験では、見たことがない問題が出題されると考えてください。出題範囲が広いからです。そのため、システム監査における基本的な、リスク要因、リスク、コントロール、確認すべきポイント（監査要点）、監査手続に関する知識を整理しておきましょう。知識をえ、応用できるようにしておくことが重要と考えます。

本試験で見たことがない問題に直面しても、焦らないことです。受験会場のほぼ全員がそのように感じているからです。“しっかりと専門知識を習得しているから大丈夫”と考え、問題文の趣旨をヒントにして論述内容を自分の頭から絞り出すようにしましょう。

■本試験での注意

(1)記述式問題では 3 問とも概要を確認

本試験では、問 3 まで余裕をもって問題の概要をチェックしてから解答する問題を選択しましょう。

(2)集中力の適切な配分

本試験は、開始から終了まで長時間行われます。今回は会場受験が中止になりましたが、自宅等でいった公開模擬試験で体験した体力の消耗度や集中力の低下などを参考にして、試験開始から午後 II 論述式試験が終了するまで、集中力を上手に配分して、試験の途中で力尽きないようにしましょう。

(3)他人事ではない！問題選択の記入漏れへの留意

記述式問題の解答では、問題選択の記入漏れは少ないです。ですが、全て郵送にもかかわらず、論述式問題では 3%ほど記入漏れがありました。論述式問題における問題選択の記入漏れは、決して他人事ではありません。本試験では、解答提出時の最終確認を、怠らないようにしてください。

合格に向けて、がんばりましょう。

— 以上 —